

色彩とハーモニーに包まれて —山つつじ歓笑会in二本木峠—

毎年5月5日に二本木峠では山開きが行われます。それに合わせるように、鮮やかで赤く燃えているかのような「山つつじ」が峠一帯を包みます。今年もたくさんの観光客が訪れ、その様子に感動されていました。

そして、開けたステージでは「山つつじ歓笑会」と銘打った、バンド演奏や歌謡ショー、フラグダンスなどが催され、目でも耳でも楽しめる会となりました。



陽に照らされるつつじは目をつぶってもなお、まぶたにその赤さが残るような地上の太陽です。今年を見逃してしまった方、来年の5月を楽しみにしてくださいね。

白石の神送り



伝統と文化を映す

5月14日(日)、白石地区で毎年恒例の神送りが行われました。神送りは、厄病払・かぜの神送りとして伝承され、1年間の無病息災を願う、県の無形民族文化財に指定されている行事です。

子どもからお年寄り、また、地元の方から観光客まで、はっぴ姿に身を包み、神輿に小旗を持ち、字境まで行列を作りました。

白石地区は村内でも元気なお年寄りが多い地域で頼もしいですが、次の世代に神送りという文化・伝統を「伝承」しなければならないといけない使命があります。絶えることなく、10年先も、100年先も続いていくことを願う、そんな思いを感じる行事でありました。

圧巻の鼓舞

4月23日(日)、白石のふるさと文化伝習館分館(旧白石分校)において、和紙の里文化フェスティバルでおなじみの「鬼太鼓座」が太鼓演奏を披露されました。

鬼太鼓座は数年前からふるさと文化伝習館分館を合宿所として利用されています。そのお礼も込めて、地域住民などを招待し、圧巻のパフォーマンスをしていただきました。

演奏を目の当たりにした方は「聞き終えた後で鼓動が胸を熱くしてくれています」と感動されていました。

おんでござ 『白石まつり』にて鬼太鼓座披露



Vol 3 「原料の楮ってなーに？」

細川紙に欠かせないのが「楮(こうぞ)」という植物。どんな植物か想像できる？右の写真が楮だよ！(伐採後)楮はクワ科の落葉樹。大きいもので3メートル、栽培が簡単で毎年収穫できるんだよ！その繊維は太くて長くて、なんといっても強じん。障子紙など、幅広い使い道があるんだ。現在、使用されている楮はほとんどが外国産の楮なんだけど・・・細川紙は国産の楮を使って漉くの。古来の伝統が今のユネスコ無形文化遺産となった細川紙を支えているんだね！

